



○ 草の根パートナー型

平成24年度第1回 採択内定案件

I. 提案事業の概要	
1. 対象国名	インドネシア
2. 事業名	インドネシア・グマン・ハリムン・サラック国立公園における持続可能な観光開発を軸とした住民参加型環境保全プロジェクト
3. 事業の背景と必要性	国立公園内に広がる耕作地の収用などの不安を抱えるマラサリ村住民は、国立公園管理事務所との協働による土地利用計画への参加などを通して環境保全に参加する傍ら、地域に残された自然資源を利用した観光事業の実施による代替収入の確保に期待を抱いている。しかしマラサリ村住民はこれまでに観光開発の経験がないことから、国立公園と共存した持続可能な観光開発の実施に対し、経験を有する外部団体からの支援を必要としている。また、国立公園管理事務所は計画性のない観光事業の実施に懸念を抱いており、観光事業の実施に際して経験を有する団体より、事業計画の策定や観光プログラムの作成についての支援を必要としている。
4. プロジェクト目標	グマン・ハリムン・サラック国立公園において、持続可能な観光（ST）開発を通じて、住民と国立公園管理事務所との協働による環境保全が実現する。
5. 対象地域	グマン・ハリムン・サラック国立公園 ボゴール県マラサリ村地域
6. 受益者層 (ターゲットグループ)	マラサリ村住民1,000世帯（約4,000人）
7. 期待される成果及び活動	<p><アウトプット></p> <ol style="list-style-type: none"> マラサリ村住民と国立公園管理事務所との間で合意形成が行われ、ST振興に関する国立公園内の環境保全と利用に関する仕組みが構築される。 マラサリ村のSTプログラムが作成される。 プロモーションを通じてマラサリ村のSTプログラムが広く知られるようになる。 評価モニタリングが実施され、ST事業の継続発展の方法および他の国立公園への普及方法が検討される。 <p><活動></p> <ol style="list-style-type: none"> 国立公園管理事務所と地域住民による合意形成を行い、地域環境保全体制を構築する。 マラサリ村におけるSTプログラムを作成する。 マーケット分析に基づくプロモーションを実施する。 モニタリングの実施とST実施継続体制の構築。
8. 実施期間	2014年6月から2017年6月（3年）
9. 事業費概算額	47,194千円
10. 事業の実施体制	プロジェクトマネージャーはインドネシアに常駐し、その他エコーリズム指導専門家やモニタリング担当の日本人スタッフを適宜派遣する。カウンターパート機関はグマン・ハリムン・サラック国立公園管理事務所とし、県政府観光促進課など関係ステークホルダーは設置されるST協議委員会のメンバーとして事業に関わる。
II. 応募団体の概要	
1. 団体名	公益社団法人日本環境教育フォーラム
2. 活動内容	環境教育の普及・啓発、および、途上国の環境教育支援を通じた持続可能な社会づくりへの貢献。